

## 2. 養殖漁業振興事業費

### 1) 魚類防疫体制整備事業

山本充孝・二宮浩司・遠藤誠

**【背景】**本県ではアユ養殖を中心にマス類、コイ類等の淡水養殖業が行われているが、魚病の被害が依然多発している。

**【目的】**養殖業における魚病被害の軽減と予防を図り、養殖経営の安定化と安全な食品生産に寄与する。

#### **【成果概要】**

1. 全国魚類防疫推進会議(10月30日、3月20日)
2. 滋賀県魚類防疫会議(2月5日)
3. 水産動物防疫講習会(2月20日)
4. 滋賀県アユ冷水病総合対策研究推進検討会(9月24日、3月26～27日)
5. 平成14年度魚病指導総合センターにおける魚病診断状況(表1)

①アユ:平成14年度の診断件数は118件と昨年度の120件とほぼ同数であった。

診断状況は冷水病やシュードモナス病の割合が多く、両疾病の全診断に占める割合は混合感染を含めると冷水病が51.8%、シュードモナス病が39.8%となった。

②コイ・フナ類:平成14年度の診断件数は18件で、昨年度の16件と比べ若干増加した。キロドネラ症、水カビ病等が診断された。

③マス類:平成14年度の診断件数は24件と昨年度の20件と比べて増加した。

せつそう病が多くみられ、また、被害量は少ないものの冷水病も診断された。

#### 6. 医薬品残留総合点検

簡易検査(水産試験場で実施)

アユ: 20体=4業者(残留抗生物質検出せず)

ニジマス: 12体=4業者(残留抗生物質検出せず)

**【成果の活用】**魚病発生時に原因の究明、薬剤感受性等魚病診断を実施し、その結果を速やかに伝達することにより魚病被害の軽減を図る。

